

## ヤクシカの生息状況の現状について

### 1 全島的な生息数等

屋久島におけるヤクシカの全島的な推定生息個体数は、環境省が20年度～21年度の間に行った調査(30地点)によって、11,783～16,264頭とされている。

生息密度については、同調査では、0頭から96.7頭/km<sup>2</sup>(平均生息密度は35頭/km<sup>2</sup>)となっている。

また、第2回WGにおいて塩谷氏から、上記報告に新たな31地点を加えられた61地点のデータが入った図(別紙1)が提示され、これによれば、生息密度は0頭～世147.4頭/km<sup>2</sup>となっている。また世界遺産地域内(全体で13地点のデータ)では、15.6頭/km<sup>2</sup>(愛子)～147.4頭/km<sup>2</sup>(西部林道)と高い生息密度を示している。

### 2 地域別の生息数等

前述のとおり、全体的に高い生息密度となっているが、地域によって大きな差がある。

環境省が平成20年度から21年度に行った調査による地域別の個体数の推定値(11,783～16,264頭)は、以下のとおりとなっている。

西部地域 : 5,940～8,202頭

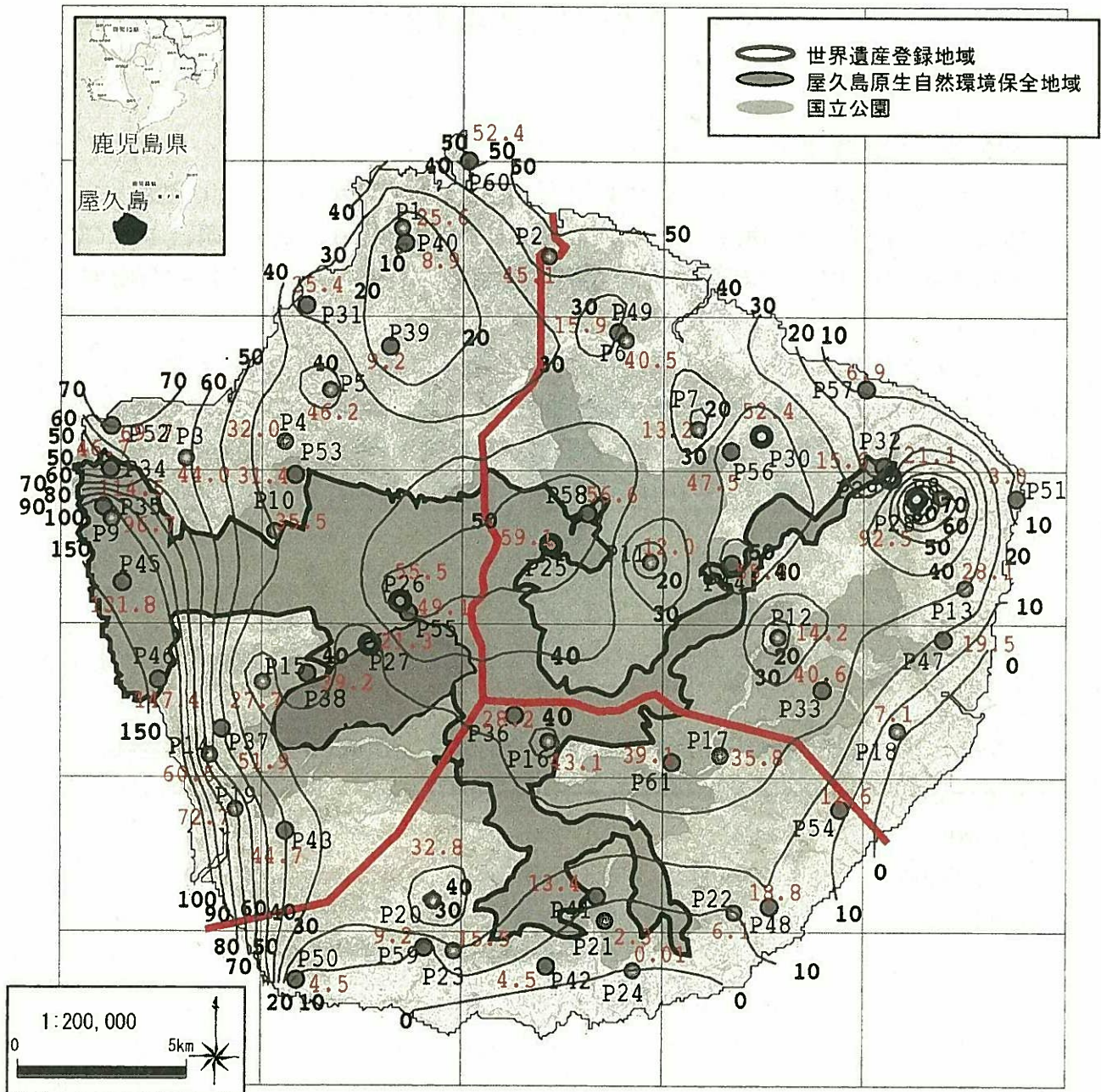
北東部地域 : 4,223～5,827頭

南部地域 : 1,620～2,236頭

さらに、細かく見ていくと、生息密度が最も高い地域が西部の西部林道周辺地域で100～150頭/km<sup>2</sup>程度、これに続く地域が東北部の小瀬田の町営牧場周辺地域の90頭/km<sup>2</sup>程度、西部の大川林道(低標高部)地域が50～70頭/km<sup>2</sup>程度、奥山の永田岳地域、高塚山地域、小杉谷地域、花之江河地域が40～50頭/km<sup>2</sup>程度と高い密度となっている。これらはほとんどが世界遺産地域となっている。

一方、生息密度が10頭/km<sup>2</sup>程度以下の地域としては、南部の尾之間、湯泊、中間の低標高地域が挙げられる。

図-2 61地点によるヤクシカ密度空間ポテンシャル及び3分割区域の推定個体数



●, 20年度調査, ●, 平成21年度調査, ●, 幸田良介・揚妻直樹・辻野亮・揚妻一柳原芳美・眞々部貴之 (印刷中) 屋久島全島における糞塊を用いたヤクシカの生息密度分布と全頭数推定. 財団法人日本自然保護協会編「屋久島世界遺産地域における自然環境の動態把握と保管理手法に関する調査報告書」より. 著者らのご厚意により元データから地図上に乗せたもの.

平成21年度霧島屋久国立公園屋久島地域におけるヤクシカ適正管理方策検討業務  
各調査地点における糞粒調査結果

調査地点	緯度	経度	林班	地域	高度 (m)	調査値 糞密度 (糞粒数 /m <sup>2</sup> )	シカ密度 (頭/km <sup>2</sup> )	糞粒数 (林道側)	糞粒数 (奥)	
1	30° 26'46.27"N	130° 28'27.13"E	非国有林	一湊林道	40	1.56	24.8	87	85	
2	30° 26'2.81"N	130° 31'15.54"E	246	志戸子林道	110	2.75	43.7	64	239	
3	30° 22'49.57"N	130° 24'44.95"E	非国有林	カンカケ岳	65	2.77	44.0	91	214	
4	30° 23'5.65"N	130° 26'24.57"E	270	永田歩道入り口	100	1.96	31.2	152	64	
5	30° 23'57.42"N	130° 27'10.81"E	258	永田林道	60	2.90	46.0	123	196	
6	30° 24'47.58"N	130° 32'44.14"E	240	宮之浦川	100	2.53	40.1	144	134	
7	30° 23'18.05"N	130° 34'11.28"E	216	白谷雲水峡	550	1.05	12.9	15	100	
8	30° 22'55.01"N	130° 39'10.01"E	202	愛子岳	170	3.93	62.4	193	239	
9	30° 21'51.81"N	130° 23'11.03"E	3	西部林道	200	5.85	96.7	356	288	
10	30° 21'41.53"N	130° 26'45.15"E	268, 269	竹の辻	850	3.44	35.4	311	67	
11	30° 21'15.18"N	130° 30'20.75"E	99, 100	小杉谷	700	0.97	12.0	57	50	
12	30° 19'56.95"N	130° 35'36.31"E	104	荒川ダム	700	1.15	14.1	122	4	
13	30° 20'48.70"N	130° 38'49.82"E	110	船行	85	1.76	28.0	58	136	
14	30° 17'57.72"N	130° 25'8.44"E	15	大川林道入口	50	3.62	59.8	105	293	
15	30° 19'10.93"N	130° 25'53.05"E	14	大川林道一花山	500	1.72	27.3	106	83	
16	30° 18'12.74"N	130° 31'18.48"E	83	淀川登山道	1,480	3.46	42.7	150	231	
17	30° 18'2.43"N	130° 34'41.91"E	80	ヤクスギランド	1,100	1.12	19.6	13	110	
18	30° 18'28.84"N	130° 37'42.36"E	74	安房	230	0.57	7.1	63	0	
19	30° 17'8.09"N	130° 25'33.31"E	非国有林	栗生	500	5.81	71.7	517	124	
20	30° 15'19.14"N	130° 29'20.50"E	43	湯泊林道	470	2.64	32.5	143	147	
21	30° 15'21.90"N	130° 32'21.62"E	53	尾之間歩道	500	0.14	2.3	0	15	
22	30° 15'23.43"N	130° 34'50.76"E	非国有林	千尋滝	250	0.37	5.9	27	14	
23	30° 14'41.67"N	130° 29'42.09"E	非国有林	平内	180	0.94	15.5	96	7	
24	30° 14'30.90"N	130° 32'51.62"E	非国有林	尾之間	115	0.01	0.0	0	0	
25	30° 21'28.97"N	130° 31'11.03"E	228	小高塚岳	1,473	4.71	59.2	366	152	
26	30° 20'32.69"N	130° 28'29.20"E	266	鹿之沢小屋	1,492	3.59	55.5	165	230	
27	30° 19'46.91"N	130° 27'55.42"E	14	花山歩道	1,330	1.38	21.3	113	39	
28	30° 22'39.43"N	130° 38'11.91"E	202	町宮牧場	189	5.83	92.5	186	455	
29	30° 22'28.31"N	130° 37'33.19"E	205	小瀬田林道	220	1.33	21.1	106	40	
30	30° 23'43.07"N	130° 35'14.54"E	206	楠川歩道	229	3.30	52.4	281	82	
平均値								35.9	140.3	127.9
±95%								5.1	24.4	22.2

ヤクシカの個体数のトレンド

【戦前】

シカ生息密度はかなり高かった（定性的な文書記録）。

【1970年代】

10年間の禁猟による全面保護を実施。シカ頭数は約2000頭位で推移したと推定される。

【1980年頃】

農林業被害が出始めた。しかし、昼・夜間の林道や奥山でシカを目撃することは稀だった（1984-87年：矢原による固有植物調査当時の記憶）。

【1995年→2005年】

ライトセンサスによる目撃数が増えた（立澤・矢原らの調査：西部林道・小瀬田林道で10倍程度、宮之浦林道・安房林道で数倍程度、奥山で微増、南部では増えていない）。1997年植物レッドリスト編集の時点で絶滅危惧植物への影響が顕在化。

【1997年→2006年】

西部林道固定観察ルートでの目撃数が約6倍（幸田博士論文）。

【2006年→2010年】

ライトセンサスによる目撃数は、西部林道ではほぼ一定（飽和を示唆）、小瀬田林道では約3倍（川村・幸田）。